

祝 卒業

2026.2.28



今年度春のクラス写真



2 学級



1 学級



4 学級



3 学級



6 学級



5 学級



7 学級

お世話になった先生方からのお祝いの言葉

「駅」へ卒業に向けて

学年主任 伊藤望



何度目かの「卒業」という駅での乗り換えを経て今日ここで下車するみなさんはここから先、目的地がさまざまになりますね。今日までの列車の乗り心地はどうでしたか。仲間との旅を楽しめましたか。それとも「規則」という名の窮屈な座席に疲れましたか。

ここまでの道のりは多かれ少なかれ大人によってレールが敷かれていました。みなさんは好むと好まざるとに関わらず、だいたい同じように走ってきました。それも少し飽きてきたところでしょうか。

でも今回の乗り換えではみなさんそれぞれが好きな列車を選んで旅することになります。どちらに進めば正解というものもありません。

それぞれが選んだ道の車窓からは他の人とは別の景色が見えることでしょう。それはあなただけのものです。時には人の景色が美しく見えることもあるかもしれませんが、あるいは運悪く列車が止まる日もあるでしょう。

でも、終着駅に着くその日まで自分の選んだ旅路を楽しんでほしい。自分の旅は最高であったといつか言える日が来ることを心より祈っています。

卒業おめでとうございます。

すべての経験が財産

日年一学級 担任 久保英里



ご卒業おめでとうございます。皆さんが入学したときから三年間、近くで日々成長する姿を見ることができ、嬉しく思っています。皆さんは高校生活を振り返ると客観的に見てどのような生徒でしたか？

私が高校生の時は、「これは私に必要なことから取り組もう、これは必要ないから取り組まなくていいや」と物事を取捨選択して考える生徒でした。しかし、大人になるにつれて経験するものや学ぶものすべてに興味があり、それらが自分の糧になるのではないかと思いつき始め、「どんなことでもとりあえず一生懸命に取り組んでみよう、自分には関係ないかもしれないけど参加してみよう」と考えるようになりました。実際にその経験が実を結んだこともあります。

今後皆さんは責任を伴った自由を手に入れ、多くの出会いが周りに転がっています。専門分野だけでなく、専門分野以外のことにも積極的に目を向け、その出会いを拾って行ってください。そうした経験が皆さんの視野や知識を広げ、人生をより豊かにしてくれるはずです。

これから先、楽しいことや嬉しいことだけではなく、我慢が必要なことや努力がすぐには実らないことなど、悩む場面も今以上に増えるかもしれません。しかし、それは多くの出会いを拾っているからこそ生まれるものです。自分を信じ、自分を大切にしながら前に進んでください。

最後に、ヘミングウェイの言葉を紹介いたします。“Every day is a new day.” 高校卒業後はそれぞれの道へ進んでいくこととなりますが、この言葉のように毎日が新しい始まりだと思える、充実した日々を過ごしてください。

「選択」と「継続」が未来をつくる

日年一学級 副担任 明見翔



卒業おめでとうございます。学年団として皆さんと関わったのは、この一年間でした。決して長い時間ではありませんが、その中で私自身多くの刺激を受け、たくさんのことを学ばせてもらいました。

私は何度か、「自分がやりたいこと」「自分にできること」「社会から求められること」、この三つが重なる部分を考えて続けてほしいと伝えてきました。面接練習や志望理由書の作成の中では、自分の将来の目標について考えた人もいます。しかし、まだ明確になっている人は多くありません。目標が定まっていない今だからこそ、自分の進む方向について考え、探し続けてほしいと思います。

これから始まる大学生活は、出会いにあふれており、自分の選択次第で人生は大きく変わります。その中で大切になるのが、「続ける」という選択です。続けることで、偶然の出会いや経験が意味を持ち、「できること」として積み上がっていきます。その積み重ねが、進路や社会との新たなつながりを生み出していきます。

協創で真剣に過ごしてきた皆さんなら、きっと自分の未来を切り拓いていきます。皆さんのこれらの挑戦を、心から応援しています。

遊びの人生



曰年2学級 担任 石田真一

「人間、生まれた時から全て遊びだわ!」と織田信長に扮した俳優の加瀬亮さんが言っていた。「遊び」とは何か?

「遊び」とは、自発的で自由な活動で、過程そのものを楽しむことが目的であり、やってみたいという内発的な動機から始まるものである。」

とAIが教えてくれた。生まれた時からずっと自発的に自由に楽しんで、やりたいと思ったことをやる人生、まさに理想的な人生のように思える。しかし、自発的に自由に活動するためには、かなりの発想力や行動力等が必要となる。また、やりたいと思ったことをやるためには、かなりの主導力や探究力等が必要となる。遊びの人生は、決して楽な人生ではないように思える。卒業後、皆さんには人生の全ての過程を遊んでもらいたい。そして、その実現のために、様々な能力に磨きをかけてもらいたい。

「うまくやれ!」と、私は皆さんによく言った。「うまくやる」とは何か?

「うまくやる」とは、物事をそつなく処理し、良い結果や成果を得ることである。複雑な状況を円滑に切り抜け、障害や問題を軽やかに乗り越えることである。」

とAIが教えてくれた。そつなく処理するためには、経験が必要不可欠である。卒業後、皆さんには多くのことを経験してもらいたい。そして、円滑に、軽やかに乗り越える技を身に付けてもらいたい。

長々と書いてしまいました…、

卒業生諸君、

「遊びの人生、うまくやれ!」

幸せな毎日を



曰年3学級 担任 谷口直哉

これまでスポーツを中心とした自分の経験を通して、成功するその一瞬のためにさまざまなことに耐え、精神力を日々鍛えていくことが大切なことであると考えるようになりました。しかし、さまざまな本質が見えていく一方で未来への不安も高まり、「今その時」を非常に苦しく感じたときもありました。そうした経緯の中で改めて幸せとは何だろうと考えるようになった時に、成功≠幸せではないということに気づきました。

多くの解釈が存在すると思いますが、幸せとは気分を味わうという意味だと私は解釈しています。今その時の時間をどのように感じていくのかということ積み重ねていくことで、振り返ってみると幸福な時間であったと気づけることに大きな価値があるのではないかと思います。

過去を悔やみ、未来に不安を抱えるのではなく、今その時に応援してくれる人や家族、仲間がいることに気づけるかどうか大事なことの1つではないのでしょうか。

みなさんには家族をはじめ、これまで関わってきた友人や先生、恩師の方が存在し、気分が損なわれたときに味方になってくれる人がいます。感謝の心を抱きながら、これからも幸せな日々を送ってください。

当たり前を問い、自分の糧で未来へ



曰年2・3学級 副担任 稲田紀子

皆さん、高校卒業おめでとうございます。

三年生の一年間を振り返ると、修大コースや協創コースの授業、終礼、進路相談や面接練習など、数えきれない時間を皆さんと共に過ごしてきました。思うようにいかず、落ち込んだ日もあったと思います。それでも皆さんは、「もう一度お願いします」と前を向き、何度も挑戦を重ねてきました。その姿は、今でもはっきりと心に残っています。

高校生活で積み重ねてきた経験は、すべて皆さんを支える大切な「糧」です。成功したことも、悔しかったことも、決して無駄ではありません。その一つひとつが、これからの人生で皆さんを立ち上げさせてくれる力になります。

最近話題になったドラマ『じゃあ、あんたが作ってみろよ』は、「それは本当に当たり前なのか」と私たちに問いかけてくれる作品です。恋人に尽くすことを愛情表現だと信じて疑わなかった鮎美と、昭和的な男らしさを良しとしていた勝男。二人が「料理」を通して、自分自身の価値観と向き合っていく物語です。他人の価値観に合わせるだけでなく、自分は何を大切にしたいのかを考え、勇気をもって言葉にすることの大切さを教えてくれます。機会があれば、一度ご覧になってみてください。

AIが進化し、正解が簡単に見つかる時代になりました。しかし、「どう生きるか」という問いに答えられるのは、皆さん自身だけです。迷ったときは、自分の心の声に耳を傾けてください。

自分を大切に、他者と向き合い、対話を重ねていく皆さんなら、どんな時代でも力強く歩んでいけると信じています。

皆さんの未来が、希望に満ちたものであることを心から願っています。

Step Forward



旧年4学級 担任 折本鞠香

卒業おめでとう。今日まで本当にあつという間でした。人によっては三年間授業を持った人もいるのでとても感慨深いです。

一説によると、十七才の時にはまったものや打ち込んでいたもの、好きだったものは、一度熱が冷めても再燃しやすいと言われていました。それはひとえに、そのものが好きだった時のいろいろな思い出と共に記憶に残り続けるからかもしれません。また人によっては中高で出会った友達が一生の友達になることもあります。この協創で過ごした日々が、みなさんがこれから先ふと自分の人生を振り返った時、「いい時間だったな」「楽しかったな」と思えるような時間であったことを願ってやみません。

これからみなさんを待っている新しい生活に、期待と同じくらい不安もあることでしょう。環境の変化に戸惑うこともあるかもしれませんが、ここまで頑張ってきたみなさんなら大丈夫。ぜひ一歩踏み出す勇気を持って、色々なことに挑戦してみてください。そうやってうまくいったこともいかなかったことも全て学びに変えていけば、あなたの人生はより素敵なものになるはずですよ。

最後に、トーマス・エジソンの有名な言葉を贈ります。

“I have not failed. I've just found 10,000 ways that won't work.”

この言葉のように、すべてはものの見方次第です。みなさんの未来にたくさんさんのチャンスと良い出会いが待っていますように。

考え抜き、徹して歩む先に



旧年4学級 副担任 伊藤克典

ご卒業おめでとうございます。今日という節目に立つ皆さんに、心よりお祝いを申し上げます。皆さんへ贈る言葉として、元プロ野球選手であり、コーチ、監督としても数々の実績を残した野村克也さんの二つの名言を紹介したいと思います。

「どうするか」を考えない人に、「どうなるか」は見えない。」

進学、就職、夢への挑戦。これから先の道は不安や迷いに満ちているかもしれませんが、どれも正解が先に見えることは多くありません。だからこそ、自分で考え、選び、動くことが大切で、行動の一步一步が、未来の輪郭を少しずつはつきりさせてくれます。

「不器用な人間は苦勞するけど、徹してやれば器用な人間より不器用な方が最後は勝つよ。」

結果が出るまで時間がかかっても、誠実に続ける力は必ず自分を裏切りません。失敗や遠回りは、皆さんを強くし、深くします。一見して無駄に思えることも、後になって思わぬことに役立つケースが多いということを覚えておいてください。

これからの道はそれぞれ違ってても、考え抜き、徹してやり抜く姿勢は共通の財産です。周りとは比べるのではなく、自分の歩幅でしっかりと前へ進んでください。皆さんの未来が、努力に裏打ちされた確かな光に満ちることを心から願っています。

走試創愛、それいけ！協創5期生！



旧年5学級 担任 久恒和希

タイトルを見て、ピンとくるのは5学級とコアな5学級ファンだと思います。これは遠足の際に行われたフォトコンテストで、まさかの学級目標部門第一位をいただいたものを少しアレンジしたものです。当然、5学級がこんなクラスになってほしいという思いを込めているのですが、新たな世界に飛び込んでいくみなさんに対するエールにもなるかなと思って採用してみました。

高校卒業後は、今までより自由に時間が使えたり、できることを選択の幅が広がります。ですが、これからの時間が無駄なものになるか、充実したものになるかは自分次第です。「ものは試し」という言葉があるように、迷うぐらいならいろんなことにチャレンジし、さまざまな経験をしたいと思っています。

また、今日という日を迎えることができたのは、家族や学校の先生方、今まで関わってきた人たちの愛があつてこそだと思えます。多くの人に愛されるだけでなく、愛を与えられるようなステキな人になつてほしいですね。

この学年団で過ごしたのは1年だけでしたが、学年が丸となった体育祭での応援や、最後のクラスマッチ決勝戦での円陣がとても印象的でした。人のために全力になれるその姿勢をこれからも大切にしてほしい。卒業おめでとう。

「謙虚さ」を胸に



曰年6学級 担任 勝田隆正

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。みなさんのこれからの人生がより豊かになることを願う、私の大切にしてほしい言葉を送りたいと思います。

私は「謙虚」という言葉をとても大切にしています。これは、中学時代の恩師から繰り返し教わった言葉です。自信を持つことは、大切なことです。しかし、その自信が行き過ぎて「傲慢」になってしまうと、自分の欠点を見つめ直すことができなくなり、成長はそこで止まってしまいます。それだけでなく、周囲の方々への感謝の気持ちも、少しずつ薄れていってしまいます。

大リーグでMVPを3年連続受賞しているメジャーリーガーの大谷翔平選手は、世界の頂点に立ちながらも、決して自分の力だけを誇りません。インタビューでは常に他者への感謝を口にし、現在も当たり前前の努力を積み重ねています。それは常に高みを目指すために、自分はまだ成長途中であることを自覚しているからです。謙虚さとは、自分を過小評価することではありません。自分の未熟さを認め、他者から学び続けようとする姿勢のことです。

これからみなさんは、それぞれ別の道を歩んでいきます。思い通りにならないことや、失敗することもあるでしょう。そんな時こそ、謙虚に自分を見つめ、周囲の声に耳を傾けてください。その姿勢が、みなさんをより大きく、より強く成長させてくれるはずです。自信と謙虚さを胸に、これからの人生を力強く歩んでいってください。心から応援しています。

卒業にあたって



曰学年7学級 担任 廣兼宗諒

みなさん、ご卒業おめでとうございます。この学校に赴任して、初めて入学から卒業まで持ち上がった学年でした。友人思いの生徒が多く、学校行事をはじめ何事にも全力な生徒が多い印象でした。

私自身、高校生の頃は大人しく、自分の意志を伝えることができず、大人の言う通りに行動していたら、何も言われなくて済むと無難に考えていた学生でした。

しかし、社会人になって感じるのは、全力になれることの重要性です。大人になるにつれて、どこか「全力になれる自分」から、どうせ現状が変わらないと「客観的に見て自分」になっていることに気づいています。

人間には「個性」があります。今までの学校生活で注意してきた私も決して完璧ではありませんし、毎日を全力で生きている皆さんに元気づけられていました。

今後、社会に出ていく皆さんには、今の「全力になれる自分」を大切に、自分の個性をさらに伸ばしていくことに力を注いでほしいと思います。

周囲の人々を大切にすることでなく、自分自身を大切にできる人であってほしいと考えています。成長した皆さんに会えることを楽しみにしています。

たくさんの挑戦がある人生を！



曰年6・7学級 副担任 木坂啓亮

“Only those who dare to fail greatly can ever achieve greatly.” — Robert F. Kennedy
みなさんは、これまでの十八年間でどれくらい失敗をしてみましたか。小さなものも含めると、数えきれないくらいあるのではないのでしょうか。テストの失敗、部活動での挫折、人間関係での後悔……：思い返せば、誰にでも心当たりがあるはずです。

大きなことを成し遂げる人は、大きな失敗を恐れない人です。これから先の人生では、思うようにいかず「失敗したな」と感じることもたくさんあるでしょう。しかし、失敗を恐れずに挑戦した経験は、必ずみなさん自身を支える力になります。

失敗を避けるよりも、挑戦を選べる人であってほしいと思います。みなさんのこれからの、「挑戦」と、その先にある成長があることを心から願っています。





5



6



7

